

平成27年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒の多様な進路希望に応える 学力養成	① 教員の指導力改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 進路指導課	授業、土曜スクール、補習などで習熟度別学習指導を実践している。各層の生徒の進路実現への支援をさらに充実させる必要がある。	【成果指標】 英数国(7月→1月)の進研模試において、偏差値60以上の層の人数を指標とする。(学年毎)	各学年で偏差値60以上の層の人数が増加した教科数が A 3教科 B 2教科 C 1教科 D 増加なし	C以下の場合 は、各教科の 取組を見直す 。	
	② 難関大入試問題解法研究や外部模試結果の分析と対策により教科指導力を強化し、生徒の学力向上を図る。	各教科 進路指導課	個別添削による上位者指導を各学年で行っているが、全国偏差値60を超える上位層の育成が不十分である。生徒に記述力をつける指導が更に必要である。	【成果指標】 大学合格数を指標とする。 難関大3人、金沢大10人、 国公立大40人を目標とする。	国公立大40人の合格目標値を A 達成した B 9割達成した C 8割達成した D 8割未満だった	C以下の場合 は取組を見直 す。	
	③ 自立的学習習慣を定着させ、進路実現可能な学力を身につけさせる。	各学年 進路指導課	昨年度3月の学習時間調査では、各学年の平日平均学習時間は1年平日74分休日94分、2年平日137分休日153分であった。	【成果指標】 学習時間の目標値は学年プラス1時間をスタンダードとする。(学年毎)	平日休日の各学年の学習時間が基準に達した者の割合が、 A 8割を超えている B 6割を超えている C 4割を超えている D 4割以下である	C以下の場合 は学年会、教科 で指導体制を再検討する 。	隔月1回、家庭 学習時間の調査を行う。
	④ 幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	公務員試験では、一般教養や適性でバランスよく得点できる生徒がまだまだ少ない。生徒の力を的確に把握し、普段の授業や補習授業の内容を改善していく必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験において、総合判定でBランク以上の生徒の人数を指標とする。	公務員試験直前の模擬試験において、Bランク以上の生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C以下の場合 は、進路及び、 各教科で取組 を再検討する 。	
	⑤ いしかわ探究スキル育成プロジェクトでの研究・実践の成果を学校に還元し教育力を高める。	各教科 教務課 進路指導課	学力スタンダード策定により、アクティブラーニング等探究的な学習活動を取り入れるための、教員の授業スキルの向上を図る必要がある。	【成果指標】 いしかわ探究スキル育成プロジェクトの研究・実践成果を教員に還元し、探究的な学習活動を取り入れた授業を普及することができた。	探究的な学習活動を取り入れた授業を ア 複数回実施した イ 1回実施した ウ 実施できなかった アイと回答する教員の割合が A 90%以上 B 75%以上 C 50%以上 D 50%未満	C以下の場合 は各教科で指 導法を再検討 する。	年2回(7月、12 月)教員対象アンケートを実施 する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 生徒の多様な意識や生活習慣を踏まえた規範意識の育成	① 携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を勧める。	生徒指導課 全職員	携帯に伴う課題が多く、SNS利用5ヶ条を知らない生徒もいるので、使用ルールをきちんと守る習慣を身につけさせたい。また、携帯・スマホ使用が家庭学習時間奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が50分となっている。学校全体で30分以内を目標にしたい。	【成果指標】 ①使用ルールの遵守 自己評価により、達成できたかをみる。 ②使用時間 使用時間の調査から達成できたかをみる。	①生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ②生徒の使用時間調査から1人あたりの1日平均使用時間が A 30分以内 B 40分以内 C 50以内 D 50分以上	C以下の場合は、指導を見直す。	①年3回(7月・12月・3月)のアンケートを実施する。 ②年5回の調査を実施する。
	② 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	継続した取組により年々理由のない遅刻数が減り、授業時のベル着・ベルスタートも確実に定着している。学校生活のあらゆる場面で時間をきちんと守る習慣を更に高いレベルで定着させたい。	【成果指標】 生徒の毎週の遅刻集計結果を生徒玄関に掲示し、達成状況を見る。	「遅刻0の日」が年間合計で A 160日以上 B 150日以上 C 140日以上 D 140日未満	C以下の場合は、指導を見直す。	生活委員が毎週末に遅刻集計を行い、結果を掲示する。
	③ 【ICP】の取り組みを周知徹底し、毎日の清掃活動を通して全校生徒が全職員と共に、積極的な環境美化に努める	厚生課 全職員	校舎全区域の清掃活動や整理整頓の状況を点検すると共に、点数の厳正化によって、生徒の環境美化に対する意識が向上した。今年度は採点の厳正化、カード記入の徹底を促し、さらに学習環境にふさわしい校内美化の促進に努めたい。	【成果指標】 自己評価(班ごと)により、達成状況を見る。	生徒の自己評価アンケート(班ごと)から日常の清掃をしっかりとできた割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は、取組を見直す。	2週ごとに自己評価アンケート(班ごと)を実施する。
	④ 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高く、服装で指導を受ける生徒は、減少しているが十分とは言えない。また一部の生徒で交通マナー、自転車の二人乗りで指導を受ける生徒がいる。	【成果指標】 自己評価により、達成状況を見る。	生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合は、指導を見直す。	年3回(7月・12月・3月)アンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を生かした教育活動の推進と生徒のキャリア・アップ	① 進路希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	3学年 普通科 就職指導	国公立大学67名、私立大学16名、短大専門学校9名、公務員9名の希望者がいる(普通科)。	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、 A進学希望者の90%以上が進路実現した。 B進学希望者の70%以上が進路実現した。 C進学希望者の50%以上が進路実現した。 D進学希望者の進路実現が50%未満であった。 公務員希望者の A50%以上が進路希望を実現した。 B40%以上が進路希望を実現した。 C30%以上が進路希望を実現した。 D30%に満たなかった。	C以下の場合 は指導体制の見直しを行う。	
	② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる(総合学科)	3学年 総合学科 就職指導	四年制大学2名、短大・専門学校13名、公務員5名、就職16名の希望者がいる(総合学科)	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、 進学希望者の A90%以上が進路希望を実現した。 B70%以上が進路希望を実現した。 C55%以上が進路希望を実現した。 D55%に満たなかった。 公務員希望者の A50%以上が進路希望を実現した。 B40%以上が進路希望を実現した。 C30%以上が進路希望を実現した。 D30%に満たなかった。 就職希望者が A 年内に100%内定を得た。 B 1月に100%内定を得た。 C 2月に100%内定を得た。 D 3月以降にずれ込んでしまった。	C以下の場合 は指導方法の見直しを行う。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 普通科、総合 学科それぞれ の特長を生か した教育活動 の推進と生徒 のキャリア・ア ップ	③ 次の検定試験の合格を 目指し、学習意欲を高め る。 ・情報技術検定 ・基礎製図検定 ・パソコン利用技術検定	工業科	昨年度の合格率は全体で 64.4%だった。	【成果指標】 合格率を指標とする。	各種検定の合格率が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満 ※(合格者数) / (受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲 喚起の方策を 見直す	合格状況を調 査する。
	④ 国家試験の合格者を増 やす。 ・第2種電気工事士 ・技能検定3級 (電気機器組立)	工業科	第2種電気工事士は、成果が 上がらなかった。 技能検定3級(電気機器組立) は合格率は50%だった。	【成果指標】 合格率を指標とする。	国家資格の合格率が全体の A 50%以上 B 35%以上 C 20%以上 D 20%未満 ※(合格者数) / (受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲 喚起の方策を 見直す	合格状況を調 査する。
	⑤ 学習意欲喚起のための方 策として、各種検定・ 資格取得を推進する。	商業科	昨年度の合格率は全体で 54.7%。 簿記検定 38/100(38.0%) 情報処理検定 30/101(29.7%) 珠算・電卓検定 114/143(79.7%) ビジネス文書検定 151/228(66.2%) 商業経済検定 28/62(45.2%) 英語検定 9/42(21.4%) の結果である。	【成果指標】 1年間での資格取得率 の結果と、生徒の取組 。	学年及び系列の目標とする各種検定 資格に対する取得率が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満 ※(合格者数) / (受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲 喚起の方策を 見直す。	検定合格状況 を調査する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 地域に密着した、地域から信頼される学校づくりの推進	① 本校が実践する教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域理解を深める。	総務課	学校HPや飯高タイムズ等を中心とした本校の情報発信に対してはある程度の肯定評価を頂いているが、まだまだ十分とは言えない。	【成果指標】 本校の教育活動や学校行事に関する広報活動に対する保護者及び地域代表の評価。	保護者及び地域代表者に対するアンケートの回答が A: 広報活動を十分に行っている。 B: まあまあ行っている。 C: あまり行っていない。 D: 全く行っていない。	C以下の場合は取組を見直す。	積極的にマスコミを活用した広報を展開する。
	② 保護者懇談会への参加を含め、積極的な学校行事への参加をお願いする。	総務課 PTA係	文化祭やPTA総会などの主立った行事への保護者の参加にも偏りがあり、保護者の学校に対する意識に濃淡が認められる。	【成果指標】 保護者懇談会への参加を含めた学校行事への参加回数。	会員数396名のうち、保護者懇談会への参加を含め、学校行事への参加回数が3回以上の割合が A: 80% (317人) 以上 B: 60% (238人) 以上 C: 40% (158人) 以上 D: 40% 未満	C以下の場合は案内の方法を見直す。	
	③ 地元の小学校高学年・中学校を対象に理科実験授業を学期に1回行う。	理科	昨年度は2中学で実施し、理科に対する興味関心を高め、本校入学への意欲を高めることができた。今年度は対象を小学校にまで広げたい。	【成果指標】 小・中学生の理科に対する興味・関心を引き出すことができた。	実験内容に興味を持ち、自ら理解を深めるための考察や追加実験をしたいと回答する児童・生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60% 未満	C以下の場合は実施方法を再考する。	終了後にアンケートを実施する。
	④ 地域のさまざまな立場の方々に講師を依頼し、平時の授業(地域学Ⅰ、産業社会と人間など)を共同して創り上げる。	総合学科	年に数回、特定の行事の中で、地域の方に講演を行ってもらうことはあるものの、平時の授業において地域の方々と生徒が関わり合っていく場面は少ない。	【成果指標】 地域の方々に講師に招き、授業をおこなった時間数。	地域の方々に講師に招き、授業をおこなった時間数が、 A: 40時間以上 B: 30時間以上 C: 20時間以上 D: 20時間未満	C以下の場合は実施方法を再考する。	普通科における取組の可能性も考える。